

「ご利益を願う鐘」

市史編さんだより(5)

普段、私たちが使っている「利益」という言葉は、「儲け」といった意味で広く使われていますが、これを「りやく」と読むと、神や仏の恵みという意味になります。

今回ご紹介する「ご利益を願う鐘」は、東湯舟の山間にあった東明寺の梵鐘です。梵鐘の大きさは、高さ83・4cm、口径55・8cmで、側面に次のような銘文が記されています。

東大寺御領伊賀国阿閉郡

湯船庄東明寺撻鐘也而則

氏人等抽丹誠懇念同心合力興

隆之并近隣他郷貴賤上下之

結縁在之殊為現当二世悉地成就

乃至法界平等利益也仍旨趣如右

正慶元年大監 十月日 大工藤井友長

伊賀市の北東部、阿山地区には平安時代から東大寺の柚や莊園がたくさんあり、銘文にある湯船・玉滝・輓田・槇山などの地名がたびたび史料に登場します。

銘文には、東大寺領である伊賀国の湯船庄の東明寺で、湯船庄や近隣の村々の信仰心のある人々が、丹精を込めて力を合わせて鐘を作りました。現世や来世で願いが叶い、この世で皆に等しくご利益があるように、と記されています。梵鐘が作られたのは正慶元年(1332)で、藤井友長という人物が中心であったと考えられます。

梵鐘が作られた頃は、鎌倉時代から南北朝時代へと移り変わる激動の時代で、正慶元年の5年前に当たる嘉暦2年(1327)には、



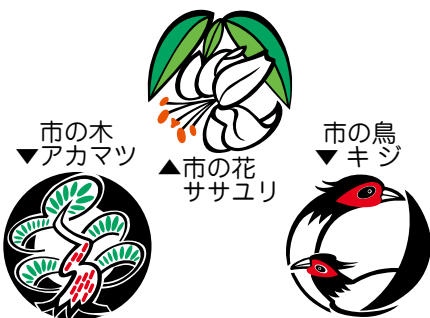
▲旧東明寺梵鐘拓影 (岡田栄吉氏旧蔵)

内保庄で民家が焼かれる事件があり、8年後の暦応3年(1340)には、輓田庄に悪党が乱入する事件もありました。こうした不安定な時代に皆に仏の恵みがあることを願い、人々が力を合わせて梵鐘を作ったと考えられます。今からおよそ650年前の湯船の地には、この平等利益を願った鐘の音が鳴り響いていたことでしょうか。

なお、この梵鐘は最初に作られた後に刻まれた銘文から、文安3年(1446)に名張郡安部田村(名張市安部田)の観音寺に移り、元龜元年(1572)には摂津国能勢郡木代庄(大阪府能勢町)に移ったことがわかります。そして今は兵庫県宝塚市に伝えられています。

現在、編さんを進めています『伊賀市史資料編 古代・中世』には、伊賀市の歴史を示す古文書・古記録だけでなく、今回ご紹介したような梵鐘の銘文なども掲載する予定です。

本庁総務課市史編さん係 ☎52・4380



発行日 平成19年6月1日
 発行 伊賀市
 〒518-8501
 三重県伊賀市上野丸之内116番地
 編集 企画振興部広聴広報課
 ☎0595-22-9636
 FAX 0595-22-9617
 伊賀市ホームページ：
<http://www.city.iga.lg.jp/>

ひとが輝く 地域が輝く
 ~住み良さが実感できる自立と共生のまち~
 伊賀市 IGA CITY

太極拳教室

5月11日、阿山B&G海洋センターで阿山スポーツ教室「太極拳教室」が行われました。太極拳は、緩やかで流れるような動作が特徴の中国武術の1つで、皆さんも健康体操としてご存知だと思います。



今年で7年目を迎えたこの教室は、呼吸と姿勢に気をつけながら無理のない動作を行い、心と体をリラックスさせて元気になろうと開催しています。参加された方は、実際にやってみるとゆっくり動くのは難しいけれど、体の芯まで温まり、終わった後はすっきりと爽快な気分になると、健康効果を実感している様子でした。(今月の表紙)



この広報紙は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。